

関係機関長 殿

沖縄県病害虫防除技術センター所長  
(公印省略)

### 病害虫発生予察特殊報について

平成21年度病害虫発生予察特殊報第1号を発表したので送付します。

### 平成21年度病害虫発生予察特殊報第1号

1 害虫名 : タバココナジラミ バイオタイプQ

2 学 名 : *Bemisia tabaci* Q-biotype

3 対象作物名 : ピーマン

4 発生地域 : 沖縄県八重瀬町

#### 5 発生確認の経緯

- (1) 平成21年1月に八重瀬町内の施設ピーマン(1施設)で採集されたタバココナジラミについて、同年3月に沖縄県農業研究センターにおいてPCR-RFLP法による遺伝子検定を行ったところ、本県では未確認のタバココナジラミバイオタイプQ(以下、バイオタイプQ)である結果が得られた。
- (2) さらに、同年4月、同サンプルを独立行政法人九州沖縄農業研究センター上田重文博士に検定を依頼した結果、バイオタイプQであると確認された。
- (3) また、同年4月に同じく八重瀬町内の他の施設ピーマン(1施設)で採集されたタバココナジラミについても、県農研センターにおいてPCR-RFLP法による遺伝子検定を行った結果、バイオタイプQであることが確認された。
- (4) バイオタイプQは、現在39都府県で発生し特殊報が発表されている。

#### 6 形態

成虫の体長は約0.8~1mmで、翅は白色、体は淡黄色である(写真1)。幼虫は淡黄色~黄色である(写真2)。従来のタバココナジラミ(シルバーリーフコナジラミ=バイオタイプB:以下、バイオタイプB)と形態に差異はないが、遺伝子解析で識別が可能である。

#### 7 寄主植物

バイオタイプQはバイオタイプBと同様に、ナス科(なす、トマト、ミニトマト、ピーマン、パプリカ、ししとう)、ウリ科(きゅうり、メロン)、アブラナ科(キャベツ、ブロッコリー)、ユリ科(アスパラガス)、ヒルガオ科(かんしょ)、シソ科(大葉)、キク科(ガーベラ)、トウダイグサ科(ポインセチア)に寄生することが報告されている。

#### 8 被害状況

バイオタイプBと同様に吸汁による生育阻害や、排泄物に発生するすす病等の被害を引き起こす。トマトなどでは果実の着色異常や、さやいんげんでは白化症の原因となる。また、トマト黄化葉巻ウイルスやウリ類退緑黄化ウイルス(本県では未発生)を媒介する。

## 9 薬剤感受性

バイオタイプQは、ネオニコチノイド系薬剤の一部やピリプロキシフェン剤、エトフェンプロックス剤などの薬剤に感受性が低い事例が報告されている。

## 10 防除対策

タバココナジラミ(特にバイオタイプQ)は、有効な薬剤に限られることから、物理的防除や耕種的防除を含めた総合防除対策の徹底が必要である。

- (1) 作物の植え付けには、タバココナジラミの寄生が無い健全な苗を使用する。
- (2) 施設栽培では、開口部に防虫ネット(0.6mm以下)を展張し、コナジラミ成虫の侵入を防ぐ。また、近紫外線除去フィルムや光反射シートも同じく、コナジラミ成虫の侵入防止に有効である。
- (3) 黄色粘着板や黄色粘着テープを施設内や施設周辺部に設置して、コナジラミ成虫を捕殺する。
- (4) 多くの雑草がバイオタイプQを含むタバココナジラミの発生源となるので、施設内外の雑草除去に努める。
- (5) 薬剤による防除では、気門封鎖型薬剤(脂肪酸グリセリド乳剤、オレイン酸ナトリウム液剤等)を取り入れ、また、同系統薬剤の連用を避けるなど、薬剤抵抗性の獲得を回避させる。
- (6) 施設栽培では、栽培終了後は施設の密閉(蒸し込み)処理を実施し、生存虫を死滅させてから、植物の残渣等を施設外へ持ち出し処分する。



写真1. バイオタイプQ(成虫)



写真2. バイオタイプQ(幼虫)

写真提供: 沖縄県農業研究センター

---

詳しくは沖縄県病害虫防除技術センターにお問い合わせ下さい

:TEL: 098-886-3880, 098-886-0227

:アドレス: <http://www3.pref.okinawa.jp/site/view/cateview.jsp?cateid=119>